



**東洋大学 自己点検・評価(専攻フォーム)**

**部門名 : 国際学研究科 国際地域学専攻**

(1) 理念・目的

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評価	改善策	改善時期
1) 大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。	○研究科又は専攻ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的の設定とその内容 ○大学の理念・目的と研究科の目的の連関性	※1 研究科、専攻ごとに、人材養成に関する目的その他教育研究上の目的を、学則またはこれに準ずる規程等に定めているか。	「研究科規程」	各専攻、課程において、「教育研究上の目的」を、各研究科の研究科規程に適切に定めている。	※1.当該項目については、平成23～25年度の自己点検・評価及び平成26年度の認証評価の結果から、大学全体及び各学部・学科の現状には大きな問題がないことと、第3期認証評価の評価項目を踏まえ、点検評価項目の見直しを図ったが、この項目における影響はないと判断し、毎年の自己点検・評価は実施しないこととする。(平成29年9月14日、自己点検・評価活動推進委員会承認)。		
		2 研究科、専攻の目的は、高等教育機関として大学が追求すべき目的(教育基本法、学校教育法参照)と整合しているか。					
		3 研究科、専攻の目的は、建学の精神や大学の理念との関係性や、目指すべき方向性、達成すべき成果などを明らかにしているか。					
		4 研究科、専攻の目的は、これまでの実績や現在の人的・物的・資金的資源からみて、適切なものとなっているか。					
2) 大学の理念・目的及び学部・研究科の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。	○研究科又は専攻ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的の適切な明示 ○教職員、学生、社会に対する刊行物、ウェブサイト等による大学の理念・目的、研究科・専攻の目的等の周知及び公表	5 教職員・学生が、研究科、各専攻の目的を、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしているか。	「大学院要覧」 ・ホームページ	各専攻・課程において、「教育研究上の目的」を、「大学院要覧」及びホームページにて公表している。			
		6 研究科、専攻の目的の周知方法の有効性について、構成員の意識調査等による定期的な検証や、検証結果を踏まえた改善を行っているか。					
		7 受験生を含む社会一般が、研究科・専攻の目的を、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしているか。					
3) 大学の理念・目的、各研究科における目的等を実現していくため、大学として将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策を設定しているか。	○将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策の設定	8 大学の理念・目的を踏まえ、各専攻における目的等を実現していくため、将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策を設定しているか。	・大学院中長期計画書 ・その他( )	平成29年度より全学的な方針の下、各専攻の中長期計画を策定し、平成35年度までの到達目標とその計画を明確に定めている。また、学長施策である「教育活動改革支援予算」により、理念目的の実現に向けた教育プログラムの企画と実行を進めている。			
		9 研究科・専攻の中・長期計画その他の諸施策の計画は適切に実行されているか。実行責任体制及び検証プロセスを明確にし、適切に機能しているか。また、理念・目的等の実現に繋がっているか。	東洋大学大学院中長期計画書 研究科委員会資料・議事録 専攻会議資料・議事録	平成30年度に国際学研究科 国際地域学専攻は計画通り発足し、中長期計画の運用、検証は原則毎月1回開催される研究科長、専攻長を構成員とした研究科執行部会、研究科委員会、専攻会議において適切に行った。なお、中長期計画では先行履修など学部と連携した取組みもあることから、必要に応じて学部とも連携を取りつつ計画を進めた。	B	旧研究科・専攻との接合性に目配りしながら、毎月の定例会議で定期的に検証しながら、中・長期計画の実施をはかっている。	平成31年度
4) 大学・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。	○教育組織としての適切な検証体制の構築	10 研究科・専攻の目的の適切性を、定期的に検証しているか。	東洋大学大学院中長期計画書 研究科委員会資料・議事録 専攻会議資料・議事録	平成30年度の研究科・専攻の改組に伴って目的の見直しが行われた。今後、研究科にグローバル・イノベーション学専攻の設置が計画されているが、その設置にあたる様々な検討を通じて、あらためて研究科の目的の適切性を検証する。	B	研究科・専攻の目的の適切性について、毎年度末に研究科委員会・専攻会議にて検証を行う。	平成31年度
		11 理念・目的の適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限、手続を明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。	東洋大学大学院中長期計画書 研究科委員会資料・議事録 専攻会議資料・議事録	平成30年度は研究科・専攻の改組後の初年度であり、その理念・目的を実行に移すことに重きが置かれたこともあり、検証プロセスとしては十分に機能できたとはいえない。	B	研究科・専攻の目的の適切性について、毎年度末に研究科委員会・専攻会議にて検証を行う。	平成31年度

(4)教育課程・学習成果

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期				
1) 授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。	○課程修了にあたって、学生が修得することが求められる知識、技能、態度等、当該学位にふさわしい学習成果を明示した学位授与方針の適切な設定及び公表	12 教育目標を明示しているか。	・「研究科規程」	各研究科・専攻において、「教育研究上の目的」を研究科規程に適切に定めている。	※1と同様						
		13 ディプロマ・ポリシーを設定し、かつ公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしており、かつ、その周知方法が有効であるか。	・「研究科規程」 ・大学院要覧 ・ホームページ	各研究科・専攻において、ディプロマ・ポリシーを定め、ホームページにて公表している。							
		14 教育目標とディプロマ・ポリシーは整合しているか。	「国際学研究科規程」 大学院要覧	国際地域学専攻の教育目標とディプロマ・ポリシーは整合し、明示している。21世紀に入り、グローバル化のもとでの開発、貿易、環境などの諸問題に対応できる高度な専門知識を持った人材が渴望される中、国際機関、国際開発ビジネス、国内関係分野において有用な役割を果たす人材の育成を目指している。専攻ではこのようなニーズに応える形で教育目標を設置している。そのため、ディプロマ・ポリシーとしては具体的には、①国内外の「地域づくり」に不可欠な専門知識の習得、②当該分野の課題解決のための調査・分析能力、③先行研究の成果に基づき、新たな知見を生みだそうとする姿勢、④自身の研究成果に関して、論理に基づき、研究の独創性を理論的あるいは実践として示す能力を身につけることを目指している。	A	適合しているが、実践の中、改善を目指す。	平成31年度				
		15 ディプロマ・ポリシーには、学生が修得することが求められる知識、技能、態度等、当該学位にふさわしい学習成果が明示されているか。	ホームページ <a href="http://www.toyo.ac.jp/site/ggrs/mrds-policy.html">http://www.toyo.ac.jp/site/ggrs/mrds-policy.html</a> <a href="http://www.toyo.ac.jp/site/ggrs/mrds-curriculum.html">http://www.toyo.ac.jp/site/ggrs/mrds-curriculum.html</a>								
2) 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。	○下記内容を備えた教育課程の編成・実施方針の設定及び公表 ・教育課程の体系、教育内容 ・教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等	16 カリキュラム・ポリシーを設定し、かつ公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしており、かつ、その周知方法が有効であるか。	・「研究科規程」 ・大学院要覧 ・ホームページ	各研究科・専攻において、カリキュラム・ポリシーを定め、ホームページにて公表している。	※1と同様						
		17 カリキュラム・ポリシーには、教育課程の体系的な教育内容、科目区分、授業形態等を明示し、専攻のカリキュラムを編成するうえで重要かつ具体的な方針が示されているか。	「国際学研究科規程」 大学院要覧	国際地域学専攻のカリキュラム・ポリシーには、調査・分析能力の習得を目標とした「リサーチスキル科目」、「地域づくり」に必要な知識を習得するための「国際学分野科目」、地域計画、環境問題などに関連する「地域開発分野科目」の3つの科目群を配置し、授業科目(コースワーク)と研究指導(リサーチワーク)の適切な組み合わせが示されている。それが体系的な教育内容、科目区分、授業形態を示している。以上のように、カリキュラム・ポリシーは国際的視野をもち国内外の地域づくりに関する深い専門知識と問題分析能力の習得、新たな知見の創出能力を生み出すようになっており、教育目標やディプロマ・ポリシーと整合している。				A	適合しているが、実践の中で改善点が判明した場合、必要に応じて改善を目指す。	平成31年度	
		18 ○教育課程の編成・実施方針と学位授与方針との適切な連関性 カリキュラム・ポリシーは、教育目標やディプロマ・ポリシーと整合しているか。	ホームページ <a href="http://www.toyo.ac.jp/site/ggrs/mrds-policy.html">http://www.toyo.ac.jp/site/ggrs/mrds-policy.html</a> <a href="http://www.toyo.ac.jp/site/ggrs/mrds-curriculum.html">http://www.toyo.ac.jp/site/ggrs/mrds-curriculum.html</a>								
3) 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開示し、教育課程を体系的に編成しているか。	○各研究科において適切に教育課程を編成するための措置 ・教育課程の編成・実施方針と教育課程の整合性 ・教育課程の編成にあたっての順次性及び体系的な配慮 ・単位制度の趣旨に沿った単位の設定 ・個々の授業科目の内容及び方法 ・授業科目の位置づけ(必修、選択等) ・各学位課程にふさわしい教育内容の設定	19 教育課程は、あらかじめ学生に提示してある研究科・専攻の研究指導計画を考慮して、コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせるほか、授業科目の順次性に配慮して、バランスよく各年次に体系的に配置されているか。	大学院学則 <a href="http://www.toyo.ac.jp/site/gg/regulate.html">http://www.toyo.ac.jp/site/gg/regulate.html</a> 国際学研究科国際地域学専攻教育課程表(オンライン) <a href="https://www.toyo.ac.jp/site/ggrs/mrds-curriculum.html">https://www.toyo.ac.jp/site/ggrs/mrds-curriculum.html</a>	授業科目は各年次に体系的に配置され、単位数及び時間数も適切に設置されている。教育目標及びディプロマ・ポリシーの達成のために、授業科目はリサーチスキル科目(初年次履修を推奨)の履修をもって研究能力の基礎向上を促し、その上で専門科目として国際学分野科目、地域開発分野科目を配置している。加えて、通常の研究指導では、学術論文、実務的な文献購読とフィールド調査を組み合わせることで、地域の課題に対する理解を深められるよう、現場主義を重視した理論と実践のバランスのとれた指導を行っている。加えて、通常の研究指導とは別に、国際地域学特殊研究という枠組みを設け、毎学期2度実施される研究発表会を通じて研究の進捗状況を明示的に把握できるようにしている。	A	適合しているが、実践の中で改善点が判明した場合、必要に応じて改善を目指す。	平成31年度				
		20 各授業科目の単位数及び時間数は、大学院設置基準及び大学院学則に則り適切に設定されているか。									
		21 カリキュラム・ポリシーに則り、専門分野の特性に応じた教育内容を提供し、学生に期待する学習成果の修得に繋がっているか。									
		22 研究科・専攻の人材養成の目的に即した、社会的及び職業的自立を図るための、キャリア教育等必要な教育及び支援を行っているか。また、教育目標に照らした諸資格の取得、その他必要な知識・技能を測る試験の受験に係る指導や支援環境が整っているか(対応する資格等がある場合)。						国際学研究科国際地域学専攻教育課程表 JICA ボランティア派遣期間中の履修方法について <a href="http://www.toyo.ac.jp/uploaded/attachment/111115.pdf">http://www.toyo.ac.jp/uploaded/attachment/111115.pdf</a>	B	大学キャリアセンター主催の大学院生向けキャリアフォーラムの案内などを学生向けに積極的に実施する。	平成31年度
		23 学生の社会的及び職業的自立を図るために必要な能力の育成に向けて、研究科内の学生への指導体制は適切であるか。また、学内の関係組織等の連携体制は明確に教職員で共有され、機能しているか。						大学院要覧	A	研究指導体制・連携体制は機能しているが、実践の中で改善点が判明した場合、必要に応じて改善を目指す。	平成31年度

(4) 教育課程・学習成果

★ 平成26年度 認証評価において指摘(努力課題)とされた事項

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評価	改善方策	改善時期
4) 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	○研究科において授業内外の学生の学習を活性化し効果的に教育を行うための措置 ・各学位課程の特性に応じた単位の実質化を図るための措置 ・シラバスの内容(授業の目的、到達目標、学習成果の指標、授業内容及び方法、授業計画、授業準備のための指示、成績評価方法及び基準等の明示)及び実施(授業内容とシラバスとの整合性の確保等) ・学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容及び授業方法 ＜修士課程、博士課程＞ ・研究指導計画(研究指導の内容及び方法、年間スケジュール)の明示とそれに基づく研究指導の実施	24 シラバスに、講義の目的・内容、到達目標(学習成果)、講義スケジュール(各回の授業内容)を、具体的に記載しているか。	・シラバスの作成依頼 ・シラバスの点検資料、点検結果報告書	シラバスについては、毎年、学長及び教務部長の連名においてシラバス作成の際の必須事項、留意事項を明示するとともに、各研究科による全科目のシラバス点検を実施し、必須事項の明示や内容の充実に向けて取り組んでいる。		※1と同様	
		25 授業内容・授業方法がシラバスに則って行われているか。					
		26 研究指導計画を立案し、学生に予め明示したうえで、その計画に基づき、研究指導、学位論文作成指導を行っているか。★	大学院要覧 国際学研究科 博士前期課程・後期課程研究指導計画	各学生の研究指導計画に基づき、研究指導、学位論文作成指導を行っている。研究指導計画に基づいて各学生は研究を進め、研究の進捗を年4回の院生発表会で報告し、その都度フィードバックを受ける。特に博士前期課程においては、院生発表会での報告をもとに研究進捗状況の評価する科目である特殊研究が配置されているので、その科目の履修を通じて自身の研究進捗状況を確認することができる。	A	実践の中で改善点が判明した場合、必要に応じて改善する。	平成31年度
		27 学生の主体的な学習を活性化し、教育の質的転換を実現するために、専攻が主体的かつ組織的に取り組んでいるか。	大学院要覧 奨学金案内 <a href="http://www.toyo.ac.jp/site/gs/gs-index1.html">http://www.toyo.ac.jp/site/gs/gs-index1.html</a>	専攻として組織的に取り組みを行っている。各セメスタで中間・期末と2回の院生研究発表会を実施し、院生の学修・研究意欲を活性化させるとともに、院生同士、教員と院生の研究交流や情報交換を進めている。また、国際地域学特殊研究の枠組みで、研究の進捗状況の評価する制度を導入している。さらに、学外で論文発表・口頭発表する学生には、発表する学会が妥当かどうか研究科委員会で審議した上で、金銭的な補助を行い、研究発表を奨励している。	A	実践の中で改善点が判明した場合、必要に応じて改善する。	平成31年度
		28 カリキュラム・ポリシーに従い、各科目の学習到達目標に照らした教育方法が適切に用いられているか。					
5) 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	○成績評価及び単位認定を適切に行うための措置 ・単位制度の趣旨に基づく単位認定 ・既修得単位の適切な認定 ・成績評価の客観性、厳格性を担保するための措置 ・卒業・修了要件の明示 ○学位授与を適切に行うための措置 ・学位論文審査がある場合、学位論文審査基準の明示 ・学位審査及び修了認定の客観性及び厳格性を確保するための措置 ・学位授与に係る責任体制及び手続の明示 ・適切な学位授与	29 シラバスの「成績評価の方法・基準」に、複数の方法により評価する場合にはその割合や、成績評価基準を明示しているか。		シラバスについては、毎年、学長及び教務部長の連名においてシラバス作成の際の必須事項、留意事項を明示するとともに、各研究科によるシラバス点検を実施し、必須事項の明示や内容の充実に向けて取り組んでいる。また全学統一の授業評価アンケートにおいて、「シラバスに即した内容の授業が行われていたと思いますか」という設問を用意し、授業内容・方法とシラバスとの整合性を確認している。		※1と同様	
		30 他大学の大学院の単位認定を、適切な手続きに従って、合計10単位以下で行っているか。	・東洋大学院学則	大学院学則において10単位まで認定できることを定めており、各研究科委員会で審議の上で単位認定を行っている。			
		31 成績評価の客観性、厳格性を担保するための措置を取っているか。	成績評価基準についての大学院資料・ループブック 東洋大学成績評価基準オンラインPDF <a href="https://www.toyo.ac.jp/uploaded/attachment/3163.pdf">https://www.toyo.ac.jp/uploaded/attachment/3163.pdf</a>	東洋大学成績評価基準に従うことを各教員のシラバスに明記するとともに、その評価基準を細かに設定することとしている。専攻会議、またシラバスの一斉点検の際にその評価基準の確認を行っている。	B	措置を取っているが、改善の必要があれば改善する。	平成31年度
		32 修了要件を明確にし、あらかじめ学生が知りうる状態にしているか。	・大学院要覧				
		33 学位に求める水準を満たす論文であるか否かを審査する基準(学位論文審査基準)を明らかにし、これをあらかじめ学生が知りうる状態にしているか。★	大学院要覧	学位論文審査基準を明らかにして学生に公表している。	B	実践の中、改善の必要があると判断された点に関しては改善する。	平成31年度
		34 ディプロマ・ポリシーと修了要件が整合しており、ディプロマ・ポリシーに則って学位授与を行っているか。	大学院要覧 国際学研究科規定 修士論文審査基準 国際学研究科博士論文審査基準 国際学研究科博士学位論文審査に関する内規(甲・乙)				
		35 学位授与にあたり、明確な責任体制のもと、明文化された手続きに従って、学位を授与しているか。	国際学研究科委員会の投票に関する内規 特定課題研究論文提出要件 国際学研究科国際地域学専攻短期修了に関する内規 学位審査等に係る不適切な便宜の授受の排除並びに不適切な指導形態の排除に関する申し合わせ <a href="http://www.toyo.ac.jp/uploaded/attachment/1048.pdf">http://www.toyo.ac.jp/uploaded/attachment/1048.pdf</a>	ディプロマ・ポリシーに則って学位授与を行っている。国際学研究科規程等に明文化された責任体制と手続きに従って学位を授与している。全学的なコピー検知ソフト導入に伴い、専攻でも博士論文・修士論文にソフトによるチェックを必須としている。	B	実践の中、改善の必要があると判断された点に関しては改善する。	平成31年度

(4) 教育課程・学習成果

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
6) 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	○各学位課程の分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定 ○学習成果を把握及び評価するための方法の開発 《学習成果の測定方法例》 ・アセスメント・テスト ・ルーブリックを活用した測定 ・学習成果の測定を目的とした学生調査 ・修了生、就職先への意見聴取	36 専攻として、各学位課程の分野の特性に応じた学習成果を測るための評価指標(評価方法)を開発・運用し、教育内容・方法等の改善に努めているか。	大学院要覧 専攻会議資料 修了時アンケート	各セメスタで中間・期末と2回の院生研究発表会を行っており、院生の学修意欲を活性化させるとともに、院生同士、教員と院生の研究交流や情報交換を進めている。国際地域学特殊研究の枠組みで、研究の進捗状況を評価する制度を導入している。また、修了時アンケートを実施し、教育効果に関しては検証を行っている。定量的評価方法の採用は、高度な研究・教育体制においては慎重に取り組むべきと考える。	B	院生発表会で得たコメント等をその後の研究に反映させる必要を強調するとともに、院生相互の切磋琢磨を促す環境を提供する。	平成31年度
		37 学生の自己評価や、研究科、専攻の教育効果や就職先の評価、修了時アンケートなどを実施し、かつ活用しているか。					
7) 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	○適切な根拠(資料、情報)に基づく点検・評価・学習成果の測定結果の適切な活用(→前項でまとめて確認) ○点検・評価結果に基づく改善・向上	38 カリキュラム(教育課程・教育方法)の適切性を検証するために、定期的に点検・評価を実施しているか。また、具体的に何に基づき(資料、情報などの根拠)点検・評価、改善を行っているか。	授業評価アンケート	新研究科設置に伴い、前研究科のカリキュラムの見直し(たとえばリサーチスキル科目の導入)を行った。院生発表会等を通じ、評価し、改善点を見だし、研究科長、専攻長、教務担当教員とで不定期に議論している。	B	研究・教育者の自由を妨げないことを原則として、専攻会議や執行部会議などで毎年の教育課程表の見直し時期に議論して改善すべき点は行っている。	平成31年度
		39 教育目標、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーの適切性を検証するにあたり、責任主体・組織・権限・手続を明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させ、改善に繋げているか。	大学院要覧 専攻会議資料 修了時アンケート	新研究科設置に伴い、前研究科の教育目標、ディプロマポリシー、カリキュラムの見直しを行った。院生発表会等を通じ、評価し、改善点を見だし、研究科長、専攻長、教務担当教員とで不定期に議論している。	B	研究・教育者の自由を妨げないことを原則として、専攻会議や執行部会議などで毎年の教育課程表の見直し時期に議論して改善すべき点は行っている。	平成31年度
		40 授業内容・方法の工夫、改善に向けて、学内(高等教育推進センター)、学外のFDに係る研修会や機関などの取り組みを活用し、組織的かつ積極的に取り組んでいるか。	教員メーリングリストでの随時アナウンス	英語における授業改善講習会をはじめ、FDの講習会、講演会の案内を専攻教員に共有し、積極的な参加を促している。英語トラックの学生が多いことから英語での授業改善に力を入れている。また、年度末に実施する修了生アンケートの結果を共有し、専攻会議、研究科委員会で問題点の洗い出しを行っている。	B	教育者の自主性を妨げないことを前提に、FD講習会への参加を促していく	平成31年度

(5) 学生の受け入れ

★ 平成26年度 認証評価において指摘(努力課題)とされた事項

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1) 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。	○学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえた学生の受け入れ方針の適切な設定及び公表 ○下記内容を踏まえた学生の受け入れ方針の設定 ・入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像 ・入学希望者に求める水準等の判定方法	41 アドミッション・ポリシーを設定しているか。	・ホームページ	各研究科、専攻において、アドミッション・ポリシーを定めている。	A	※1と同様	
		42 アドミッション・ポリシーには、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像、入学希望者に求める水準等の判定方法を示しているか。	大学院要覧 https://www.toyo.ac.jp/site/ggrs/mrds-policy.html	博士前期・後期ともに判定方法を具体的に示している。博士前期課程に関しては、①国内外の地域の現状と課題に対する知識を有すること、②地域の現状と課題を理解し分析できる能力を有すること、③国内外の地域課題の理解と解決、及びそれにかかわる調査研究に積極的に取り組む意欲のある者、博士後期課程に関しては、それぞれの項目にさらに高度の能力を有することを明記している。また、筆記試験、面接、書類選考等を通じてこれらの点から判定を行うとしている。		実践の中、改善の必要があれば改善する。	平成31年度
		43 受験生を含む社会一般が、アドミッション・ポリシーを、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしているか。	・ホームページ	全研究科・全専攻において、大学ホームページにて公表している。		※1と同様	
2) 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	○学生の受け入れ方針に基づく学生募集方法及び入学者選抜制度の適切な設定 ○入試委員会等、責任所在を明確にした入学者選抜実施のための体制の適切な整備 ○公正な入学者選抜の実施 ○入学を希望する者への合理的な配慮に基づく公正な入学者選抜の実施	44 アドミッション・ポリシーに従って、入試方式や募集人員、選考方法を設定しているか。			A	実践の中、改善の必要があれば改善する。	平成31年度
		45 受験生に、入試方式別に、募集人員、選考方法を明示しているか。	大学院入学試験要項 大学院要覧 国際地域学専攻トップ http://www.toyo.ac.jp/site/grds/mrds-index.html	入学希望者の特性に応じた適切な方法で多様な入学者選抜試験を実施し、筆記試験、面接、書類選考等を通じて、アドミッション・ポリシーを示している。入試要項、専攻のウェブサイトにも多様な入試の詳細を記している。入試方式は一般入試、社会人入試、JICAボランティア入試、留学生入試と多岐にわたり、様々なバックグラウンドをもつ意欲のある学生に門戸を開いていることを明記している。			
		46 一般入試、推薦入試等、各入試方式の趣旨に適した学生募集や、試験科目や選考方法の設定をしているか。					
		47 学生募集、入学者選抜を適切に行うために必要な体制を整備しているか。また責任所在を明確にしているか。	大学院入学試験 実施本部体制 専攻内学生募集委員リスト	入試実施において、本部長を学長、実施日責任者を研究科長とした入試実施本部体制を整備し入学試験を実施している。また、入試判定については、研究科委員会において審議・承認を得ている。入試体制を専攻会議で議論し、入試問題は専攻長がチェックを行い、修正を作問者に求めている。			
		48 入学者選抜を行ううえで、障がいのある受験生に対し、障がいのない学生と公正に判定するための機会を提供しているか。	大学院入試要項 ホームページ	大学院入学試験要項において、受験生に対して受験上の配慮について明記しており、障がい学生の受け入れ態勢を整えている。また、障がい学生への支援については、基本方針(2017.4.1)並びにガイドライン(2018.4.1)を制定(ホームページで公表)し、全学的に取り組んでいる。障がいの有無で不公平にならないように配慮をしている。現在南アフリカからの留学生で車いすでの移動が必要な学生在籍しているが、学習に支障がないように配慮している。			
3) 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。	○入学定員及び収容定員の適切な設定と在籍学生数の管理 < 修士課程、博士課程 > ・収容定員に対する在籍学生数比率	49 研究科における収容定員に対する在籍学生数比率が、博士前期(修士)課程で0.50~2.00、博士後期(博士)課程で0.33~2.00の範囲となっているか。★		以下の数値により範囲内である。 分子=在籍学生数、分母=収容定員 修士 41/45=0.91 博士 12/20=0.6	A	現体制を維持する。	平成31年度
		50 部局化された大学院研究科(※)における、収容定員に対する在籍学生数比率が、0.90~1.25の範囲となっているか。★ ※学際・融合研究科	在籍学生数	専攻会議で常に状況の共有と今後について検討している。			
		51 定員超過または未充足について、原因調査と改善方策の立案を行っているか。	なし	専攻会議で常に状況の共有と今後について検討している。現時点では在籍学生人数は適正であるため改善策に関しては議論が行われていない。			
4) 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	○適切な根拠(資料、情報)に基づく点検・評価 ○点検・評価結果に基づく改善・向上	52 入試の結果を振り返り、アドミッション・ポリシーの適切性を検証し、必要に応じて改善(アドミッション・ポリシーの見直し、入試方式の変更、定員管理への反映等)を行っているか。	なし	現状で適切であり、入学してくる院生も入学後その適格が認識されているため議論にはあがっていない。	B	現体制を維持する。	平成31年度
		53 学生募集および入学者選抜の適切性を定期的に検証する組織を常設して、定期的にその適切性と公平性についての検証を行っているか。	専攻会議資料	毎回の入試結果について、専攻会議で結果の議論を行っているものの、それ以外の定期的な検証は行っていない。大きく分けて、学部学生からの進級、外部からの留学生(私費留学及びJICA関係留学生)、外部からの社会人学生に分けられる。留学生については多国籍化が進み、学生数も多い。ただし、平成30年度の秋入試に関しては修士課程への留学生の応募がなく、これは履修言語にかかわらず入試で英語を課したことによる影響かどうかは今後検証する必要がある。学部からの学生の進学は平成30年度は例年に比べて増えたが、今後学部からの進学をさらに促進していく。	B	実践のなか、検証を進め、必要に応じて改善していく。	平成31年度
		54 学生の受け入れの適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限、手続を明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させ、改善に繋げているか。					

(6) 教員・教員組織

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評価	改善策	改善時期					
1) 大学の理念・目的に基づき、大学として求める教員像や各研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	○大学として求める教員像の設定 ・各学位課程における専門分野に関する能力、教育に対する姿勢等 ○各研究科等の教員組織の編制に関する方針(各教員の役割、連携のあり方、教育研究に係る責任所在の明確化等)の適切な明示	55 教員の採用・昇格に関する審査基準を明確にしているか。	・「大学院教員資格審査規程」	全学の「大学院教員資格審査規程」を定めるとともに、各研究科で、内規等を定めて基準を明確にしている。	A	※1と同様	平成31年度					
		56 組織的な教育を実施するために、教員間の連携体制が取られているか。	・なし	研究科内に各種委員会を設置して、組織的な連携体制と、責任の所在を明確にしている。								
		57 研究科・専攻の目的を実現するために、教員組織の編制方針を明確にしているか。										
		58 研究科・専攻の個性、特色を発揮するために、契約制外国人教員、任期制教員、非常勤講師などに関する方針を明確にしているか。	文科省へ提出した国際学研究科国際地域学専攻設置申請書類 大学院規程 教員組織の編成方針の策定	研究分野の構成については、随時検討し、新研究科の発足にあたって、分野構成を明確にしている。非常勤講師等の外部資源の活用は最低限とし、専任のマル合教員を主とした編成とし、研究科担当教員のほとんどが研究科委員およびマル合教員として、責任体制の明確化を図っている。また、平成30年度に教員組織の編成方針として明文化した。								
		59 各教員の役割、教員間の連携のあり方、教育研究に係る責任所在について、規程や方針等で明確にされているか。										
2) 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	○大学全体及び研究科等ごとの専任教員数 ○適切な教員組織編制のための措置 ・教育上主要と認められる授業科目における専任教員(教授、准教授又は助教)の適正な配置 ・研究科担当教員の資格の明確化と適正な配置 ・各学位課程の目的に即した教員配置(国際性、男女比等も含む) ・教員の授業担当負担への適切な配慮 ・バランスのとれた年齢構成に配慮した教員配置	60 大学院設置基準に定められている研究指導教員および研究指導補助教員数を充足しているか。	大学院所属教員に関する資料(設置時の履歴書等) 大学院教員編成方針 国際学研究科国際地域学専攻の教員紹介 <a href="http://www.toyo.ac.jp/site/ggrs/mrds-professor.html">http://www.toyo.ac.jp/site/ggrs/mrds-professor.html</a>	20人のうち17人が教授である。年代についてはやや偏りがあり、40歳以下の教員比が小さい。	B	教員採用時には、業績を重視しつつ、年齢にも配慮を行う。	平成31年度					
		61 研究指導教員の2/3は教授となっているか。										
		62 研究科・専攻として、～30、31～40、41～50、51～60、61歳以上の各年代の比率が、著しく偏っていないか。										
		63 教員組織の編成方針に則って教員組織が編成されているか。						大学院教員編成方針、大学院研究新研究科の目的、教育課程表に整合的な形で配置されている。	A	必要に応じて改変する。	平成31年度	
		64 専任・非常勤を問わず、教員の科目担当について、教育研究業績に基づいて担当の可否を判断しているか。						大学院	専任・非常勤を問わず、資格審査委員会及び教授会の審議の際には、担当予定科目を明示した上で担当予定科目に関連する教歴、研究業績を基に審査することを前提としている。	A	※1と同様	平成31年度
		65 研究科の科目担当及び研究指導担当の資格が明確化されているか。						・「大学院教員資格審査規程」	全学の「大学院教員資格審査規程」を定めるとともに、各研究科で、内規等を定めて基準を明確にしている。			
3) 教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	○教員の職位(教授、准教授、助教等)ごとの募集、採用、昇任等に関する基準及び手続の設定と規程の整備 ○規程に沿った教員の募集、採用、昇任等の実施	66 教員の募集・採用・昇格に関する手続きを明確にしているか。	・なし	原則は基礎となる学部所属となるため、採用・昇格に関しては、研究科独自では実施していない。	A	※1と同様	平成31年度					
		67 教員の募集・採用・昇格に際し、規程等に定めたルールが適切に守られているか。										
4) ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上及び教員組織の改善・向上に繋がっているか。	○ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動の組織的な実施 ○教員の教育活動、研究活動、社会活動等の評価とその結果の活用	68 研究、社会貢献、管理業務に関して、教員の資質向上に向けた取り組みをしているか。	・新任教員事前研修資料 ・学外FD関連研修会案内 ・海外・国内特別研究員規程、件数 ・教員活動評価資料	高等教育推進センター主催による新任教員に対する研修会の実施や、専任教員の学外研修会への参加支援、また海外・国内の特別研究員制度により、教員の資質の向上を図るとともに、平成28年度より「教員活動評価」制度を導入し、教員の教育・研究活動を中心とした自己点検・評価を実施している。	A	※1と同様	平成31年度					
		69 教員の教育研究活動等の評価を、教育、研究、社会貢献、管理業務などの多様性を踏まえて実施しているか。										
		70 教員活動評価等、教員の教育・研究・社会貢献活動の検証結果を有効に活用し、教員組織の活性化に繋がっているか。						専攻会議資料・議事録 学生アンケート	教員活動評価の学科平均(研究科・専攻平均のデータは無いため)をもとに状況を共有するとともに、学生アンケートから得られる情報を教員の教育活動の向上に活用している。	B	大学院としての研究・教育活動により時間が割けるように業務の効率化を進めるとともに、マネジメント体制を構築する。	平成31年度
5) 教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	○適切な根拠(資料、情報)に基づく点検・評価 ○点検・評価結果に基づく改善・向上	71 教員組織の適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限、手続を明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させ、改善に繋がっているか。	専攻会議資料・議事録 教員資格審査規程	専攻内の教員の科目担当、委員会業務の内容を毎年度、研究科長、専攻長が検討を行い、専攻会議および研究科委員会で議論した上で、必要に応じて次年度の担当に反映させている。たとえば、JICA関係の留学生の受入れの増加が見込まれたために、留学生担当の教員数を増やすなどである。	A	必要に応じて改変を行う。	平成31年度					

(11)その他

評価項目	評価の視点		判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1) 大学が推進している3つの柱を基盤とした教育・研究活動を行っているか。	哲学教育	72	教育・研究活動の中で哲学教育を推進しているか。	大学院シラバス <a href="https://g-sys.toyo.ac.jp/syllabus/">https://g-sys.toyo.ac.jp/syllabus/</a>	国際学研究科における実質的な選択必修科目である「リサーチスキル科目」を活用して、地域のあるべき姿についての深い思考を求めたり、地域開発における倫理観の醸成を図ることができるよう、ワークショップ形式の授業形式の中で講義構成を行っている。	A		
	国際化	73	教育・研究活動の中で国際化を推進しているか。	学生出身国別資料 専攻会議資料 シンポジウムパンフレット	国際地域学専攻として行っている。JICAの長期研修生が多く、奨学金付きの留学生比率が高い。英語のみで修了できるコースの設置の効果が大きい。また、平成30年度には短期海外招聘教授制度でオスロ首都大学のピョルン・ヴィンデン教授を2週間招聘し、講義とともに国際社会共生センター主催のシンポジウム「Discussing Social Inclusion from the perspective of SDGs:Empowerment to the persons in social disadvantage」を共催した。	A		
	キャリア教育	74	教育・研究活動の中でキャリア教育を推進しているか。	大学院要覧教育課程表 国際学研究科国際地域学専攻教育課程表(オンライン) <a href="https://www.toyo.ac.jp/site/ggrs/mrds-curriculum.html">https://www.toyo.ac.jp/site/ggrs/mrds-curriculum.html</a> ToyoNet ACE共有情報	「国際地域応用学演習」では、JICAボランティアで活動することにより単位が取得できることになっている。さらに、主指導教員から随時インターンシップの紹介などを進めてもらうように依頼している。さらに指導教員が個別に行きつ、学内のイベントに活用している。	A		
2) 研究科・専攻独自の評価項目①	国際学術調査を通じた海外への院生の送り出し	75	国際学術調査を通じた海外への院生の送り出しを促進しているか	平成30年度学長施策計画書	本専攻では、教員の指導の下、海外での学術調査への院生の同行を現在まで頻繁に行ってきた。新研究科となっても同様に推奨している。院生の海外への送り出しを活性化するために、国際観光学研究科及びイタリアカメリーノ大学と協働して、イタリア中部地震地域復興プロジェクトに学生を参加させた。	A		
3) 研究科・専攻独自の評価項目②	(独自に設定してください)	76	(独自に設定してください)					
4) 研究科・専攻独自の評価項目③	(独自に設定してください)	77	(独自に設定してください)					